

図49 蓋石除去前石棺平・断面図 (1/20)

じ花崗岩バイラン土で、中に赤色顔料で染まった灰色粘土塊も多数含まれていたことから人為的に埋めたことがわかる。鏡等がこれらの土と混じって出土したことは、本来の副葬位置から動かされているとみなさざるをえない。鏡は北西が下に傾いている。文様のある面を上にしており、勾玉等が接して出土した。小玉類の中には鏡に密着しているものもあり、もともと鏡と玉類は一部重なっていたことがわかる。玉類が首飾りとして着用したまま副葬されたのだとすれば鏡は首付近に置かれていたことになるし、さらに想像をたくましくすれば文様のある面を下にしていたことも考えられる。玉類の検出範囲は開棺部にしか広がっていないことから、鏡もその範囲内

にあり、動かされた後ほぼ元の位置に戻されたとみたい。この土の中からは表面近くで長さ8 cm程の細い棒状鉄器数点も出土している。石棺に伴うものかは類例を探しながら考えた。他に石棺の南西隅でも小鉄片を検出した。

副葬品の調査後、蓋石の除去を行った。蓋石の上には粘土等の残存はなく、どのような状況で土を被せていたかはわからない。最南端の石のみ立てて隙間につめられている他は、南を高く北を低くして置かれ、南から北へ低い所に次の石を重ねている。石は大小様々で小さなものは隙間詰めに使われている。棺内に落下しているものもあった。

側石は薄い板石を使っているが、どちらかの端を内或いは外にして並べるといった規則性はない。後述するように石の内外に粘土を詰めることによって石が倒れないようになっているか

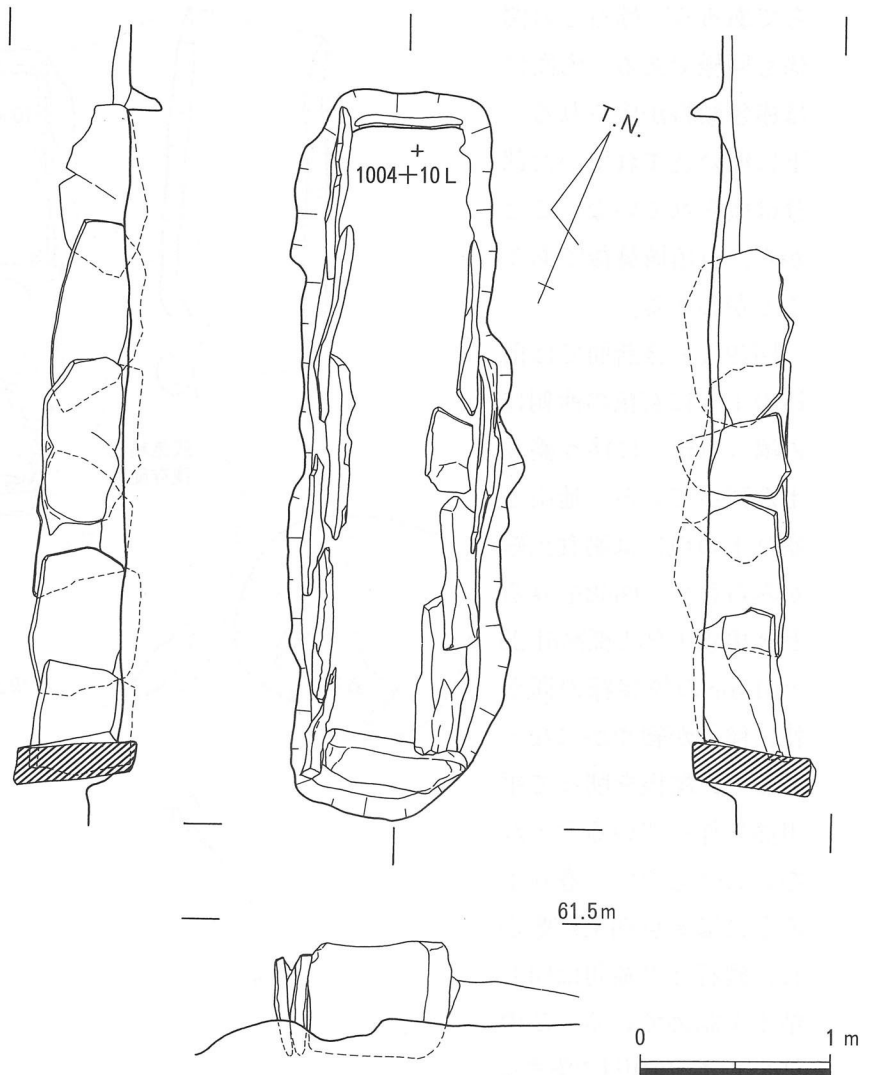


図50 蓋石除去後石棺平・断面図 (1/20)

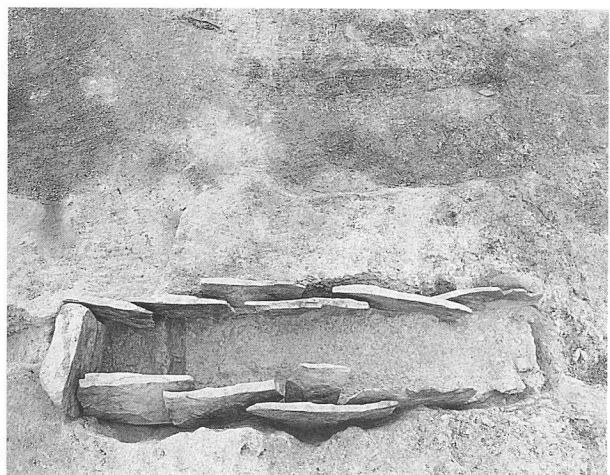


写真41 石棺 (蓋石除去後)

らであろう。端石との関係も同様である。内面には赤色顔料が塗られる。下に埋め込まれていた部分は塗られていないことから、石棺構築後であることがわかる。

図49A・B断面では前述のように石棺の西側に古墳（石棺）に伴う盛り土が残っている。地山と盛り土の境には腐食土層がみられず、図48をみると尾根頂上部の標高61.25と61.5mの等高線の間が特に傾斜が緩やかになっており、尾根を削って平坦面を作っているととれないこともない。盛り土の上には灰色粘土が敷かれ、側石との隙間は同じ粘土を詰めている。この第2層は赤色顔料で染まっている。その上に第4層と同じ土がのっている。

この第1層内から小型勾

玉（図53の3）が出土した。これが棺外副葬なのか原位置から動いているのか、第1層が神社基壇造成による攪乱土とほとんど区別がつかないことから判断できない。

石棺の西側では長さ1.6m・幅0.6mの掘り込みを検出した。石棺と方向が同じため、遺物は出土しなかったが、石棺と同時期であろうと考えている。この他、神社基壇下で検出した蓋石の一部と思われる石の下で摺り鉢状の土坑を検出している。

#### (4) 出土遺物について

野牛古墳から出土した鏡は珠文鏡に分類され、残り具合はよい。面径9.6cmで、背文構成は鈕から外へ、圏線3条・珠文帯・櫛歯文帯・圏線・平縁という順になっている。

珠文は31個が一行に並べられているが、間隔や同心円上からのずれがあり、鑄型の製作時に珠の数を決めずに適当に配置していったことが考えられる。珠の径は0.1cm強である。

櫛歯文帯の幅は0.8cmで、珠文同様間隔が不規則である。

縁形式は平縁で、幅1cm・厚さ0.3cmで、この部分のみ反っている。

この面には赤色顔料が薄く付着している。また小玉類が10個近く密着していた。

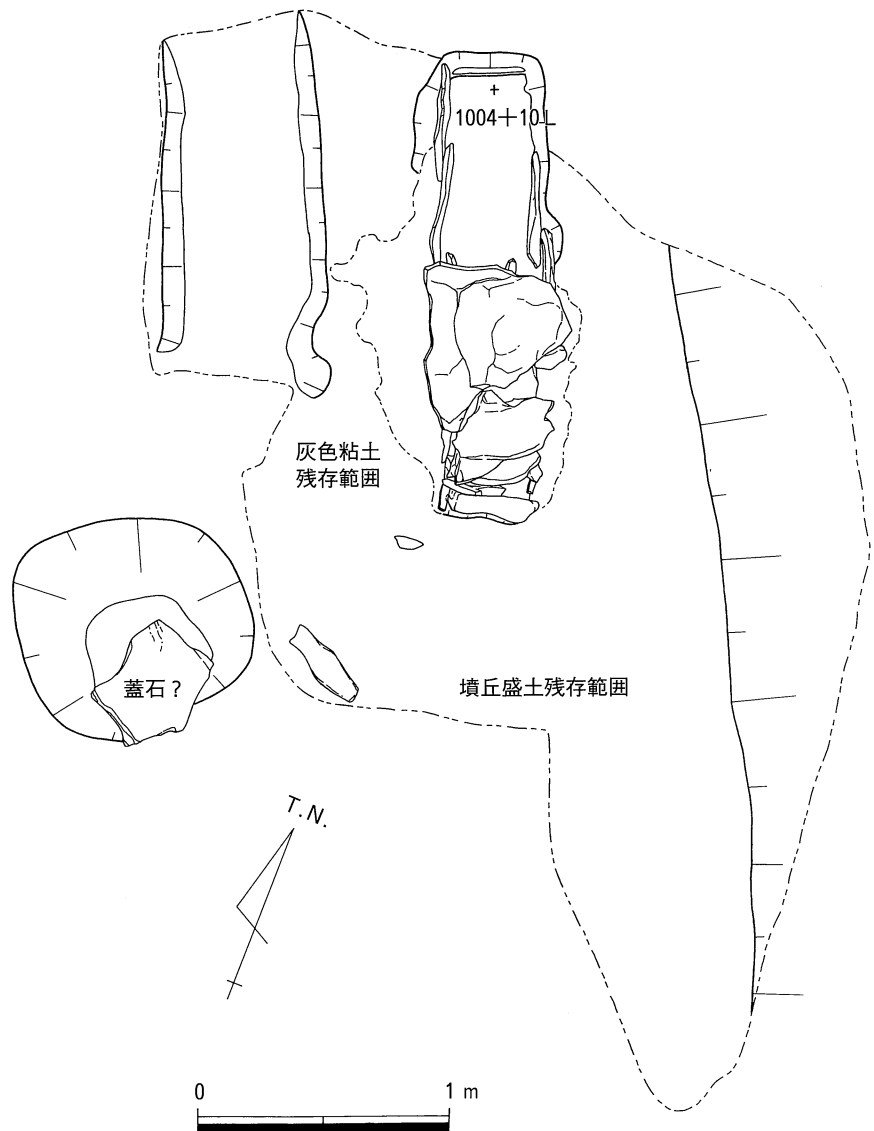


図51 石棺周辺残存遺構平面図（1/30）

鏡の面には麻布<sup>(注)</sup>が一面に付着しており、鏡を包んでいたことがわかる。

棺内から出土した玉類は割れているものも入れて、勾玉2・管玉4・ガラス玉51以上・白玉63が存在する。

1は石の上1/3に当初から鬆(す)が入ったような空洞の部分があり、外からみると濁っている。片側から穿孔している。穿孔の縁は磨かれず打ち欠いて穿孔を始めたように見える。材質は瑪瑙と思われる。2は1より小型で頭部の下のくびれが強い。水で風化したためか表面が数箇所剥離しかかっている。片側からの穿孔で、材質は翡翠と思われる。3は平面三角形だが、非対象で一方が少しくびれているため勾玉と考えた。両面からの穿孔で、材質は翡翠であろう。

管玉は大きさが2種類あり、ともに2個ずつあった。8・9とも両側から穿孔を行っている。材質は碧玉と思われる。色は小さいものは明るい灰緑、大きいもののひとつは暗い灰緑で、残りひとつはその中間の色である。

ガラス玉は径2mmの小さなものから7mmの大きなものまでさまざま、また色も空色に近いものから透き通った紺や暗い紺など数種類ある。

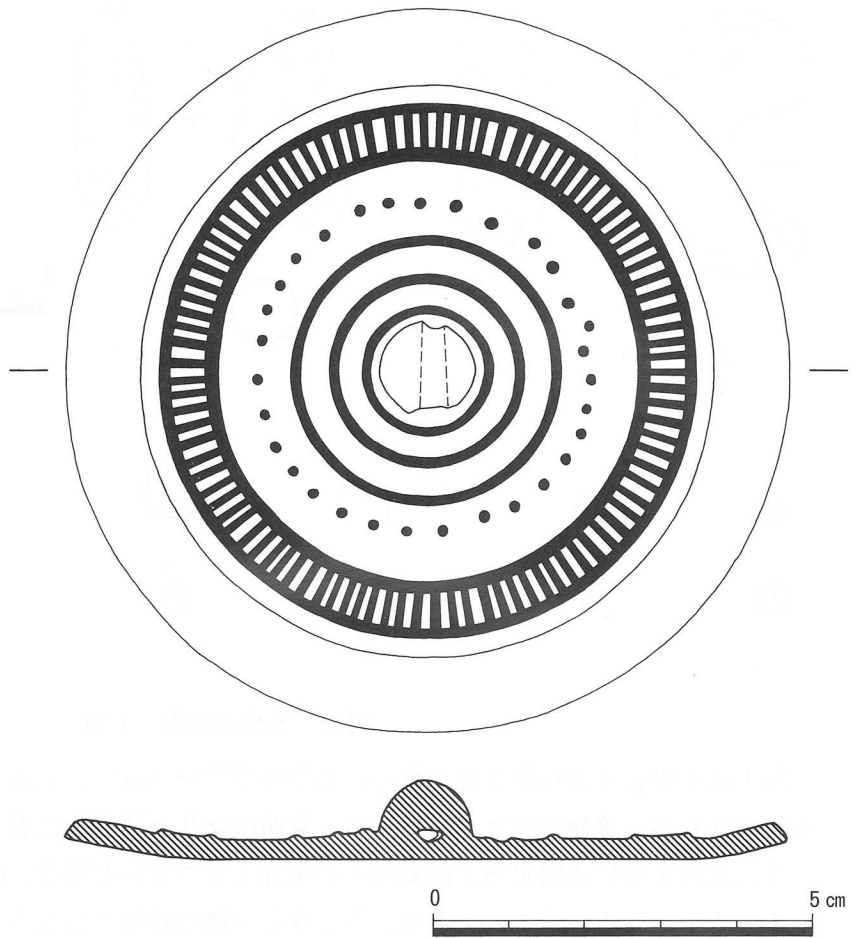


図52 鏡実測図(1/1)



写真42 鏡(文様面)

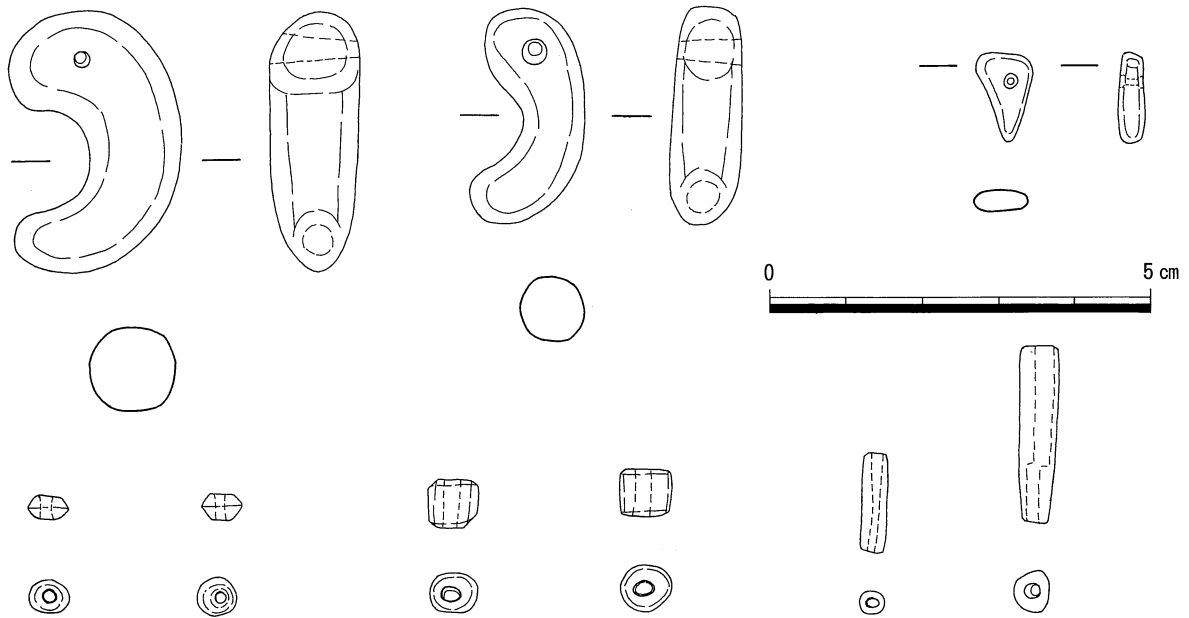


図53 玉類実測図 (1/1)

白玉は灰緑色で滑石製と思われる。厚さの平均が3mmで、1mmの薄いものもあるが、いずれも稜を作り出し算盤玉状となっている。側面は穿孔と同方向に磨いている。

今回の出土品に津田町郷土館蔵のものを加えてつないだ場合、約42cm程になる。鏡の側でまともに出て出土していることもあり、ちょうど一連の首飾りになるとと思われる。

この他、石棺の項で記した用途不明鉄器や石棺西側の盛り土内から出土した土師器細片がある。後者は実測不可能な程小さく、器種・部位とも読み取れない。

#### (5) まとめ

野牛古墳の存在は以前から知られていた。新訂『津田町史』によると野牛神社の拝殿前に安山岩の組合せ石棺が露出している。長さ170cm・幅40cm、天上石2枚残存、棺内は土で埋没、掘り返すと朱に染まった土が出てくる。いつごろ発見されたか不明である。出土した管玉2とガラス玉2が津田町郷土館に展示されているとある。調査の結果、位置・石棺の形状とも上記に一致し、また郷土館蔵の遺物についても野牛古墳出土のものとして問題ないと判断した。

石室の方向は、図48でみると尾根に直交するように築いている。香川県では埋葬施設の方向は一般に東西方向でありながら、津田湾周辺のみそれを無視しているという指摘がある。野牛古墳がそれを踏襲しているのか尾根の方向を意識しているのか今後考える必要がある。頭位は副葬品の出土状態から、北が頭であろうと判断している。

最後になったが、石棺の時期については鏡の型式と滑石白玉の形から5世紀初頭としておきたい。

注 関西大学角山教授に鑑定を依頼した。

参考文献 恵子遺跡調査会・東洋開発株式会社『恵子若山遺跡』1975

篠原祐一「白玉研究私論」『財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター研究紀要第3号』1995 (古野)

ふりがな	こくどうばいばすけんせつにともなうまいぞうぶんかざいはくつちようさがいほう							
書名	国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報							
巻次	平成7年度							
編著者名	大山真充・森 格也・森下友子・古野徳久・吉田 智							
編集機関	財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒762 香川県坂出市府中町南谷5001-4 TEL0877-48-2191							
発行機関名	香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局							
発行年月日	1996年3月31日							
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	写真枚数	挿図枚数	付図枚数	
52頁	4頁	46頁	0頁	2頁	46枚	52枚	0枚	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町	遺跡					
かべ 鴨部・川田遺跡	かがわけんおおかわぐん 香川県大川郡 志度町鴨部	37306		34° 17' 45"	134° 17' 12"	—	—	高松東道路 建設に伴う 事前調査
にしうらたにいせき 西浦谷遺跡	かがわけんきただぐん 香川県木田郡 三木町池戸	37341		34° 17' 39"	134° 7' 47"	19950401~ 19960331	10,400	高松東道路 建設に伴う 事前調査
こうでんいせき 幸田遺跡	かがわけんおおかわぐん 香川県大川郡 志度町志度	37306		34° 18' 27"	134° 11' 6"	19950801~ 19950930	1,600	高松東道路 建設に伴う 事前調査
すえさんごうかまあと 末3号窯跡	かがわけんおおかわぐん 香川県大川郡 志度町末	37306		34° 18' 19"	134° 11' 56"	19951201~ 19960204	500	高松東道路 建設に伴う 事前調査
のここ墳 野牛古墳	かがわけんおおかわぐん 香川県大川郡 津田町神野	37304		34° 16' 50"	134° 14' 46"	19951001~ 19951130	500	高松東道路 建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西浦谷遺跡	高地性 集落跡 ・古墳	弥生時代	竪穴住居 堀立柱建物遺構 段状遺構 溝状遺構 土坑 ピット		弥生土器 石器(石斧・石鏃)			
		古墳時代	古墳 1 土壇 1		須恵器 鉄製品(釘)			
幸田遺跡	縄文土 器包蔵 地	縄文時代 以降	自然河川 1		縄文土器 石器(石鏃) 須恵器			
末3号窯跡	須恵器 焼成窯 跡	飛鳥時代	須恵器焼成窯 1 溝状遺構 10 土坑 8 テラス状遺構 1 ピット		須恵器 土師器			
野牛古墳	古墳	古墳時代	古墳 1		青銅鏡1(珠文鏡) 勾玉 3 管玉 ガラス玉 51以上 白玉 63 土師器 鉄器			

国道バイパス建設に伴う

## 埋蔵文化財発掘調査概報

平成7年度

平成8年3月31日

編集 (財)香川県埋蔵文化財調査センター

発行 香川県教育委員会  
(財)香川県埋蔵文化財調査センター  
建設省四国地方建設局

印刷 株式会社中央印刷所